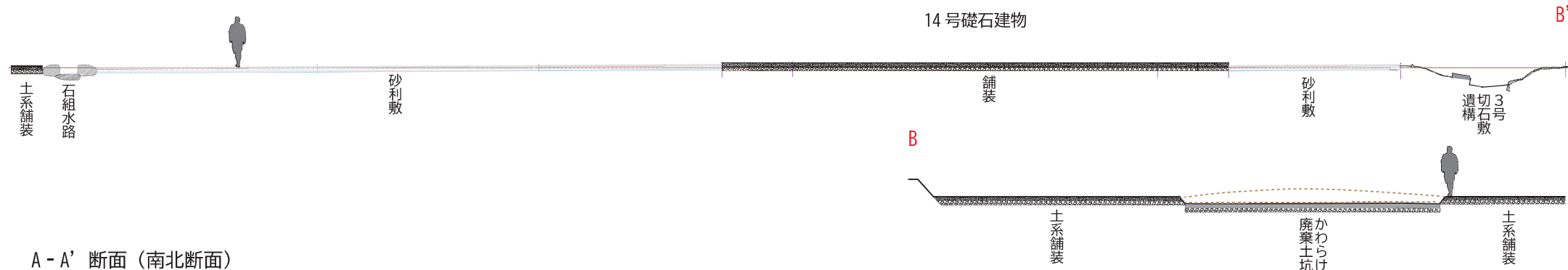


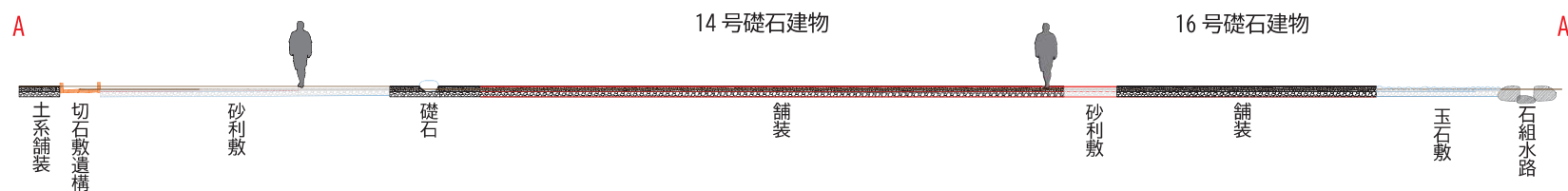
■御用米曲輪平場南側 整備計画断面図 (S=1:100)

- ・整備計画平面図に合わせて断面図を作成した。
- ・建物や遺構表示に合わせた舗装等の仕上がりの変化があり、建物周辺は平面的な空間となるが、3号切石敷遺構等の庭園部は立体的な様子となる。

B - B' 断面 (東西断面)



A - A' 断面 (南北断面)



■舗装材の検討について (建物表示、地盤面の仕上げについて)

土系舗装

砂利・玉石敷 敷設状況⇒完成形 (大友氏館跡)



■建物の表示方法について

- ・建物表示に縁石を設けるかどうか。
- ・縁石を設ける場合は、狭間石との表現の差別化をどう工夫するか。
- ・建物の軸線にからむピットは表現するか。
- ・ピットは礎石の抜き穴とされているが、抜き穴としての表現を行うか、礎石があったものとして石を置くかどうか。



自然砂樹脂舗装
(仙台城本丸御殿)

自然な風合い。常時湿潤の場合はカビや苔発生の恐れあり。
※仙台城は縁石による舗装の区分けを行っている。



洗い出し

ポーラスコンクリート舗装
強度が高い。人工的な雰囲気だが、自然石を含むため遺跡空間になじむか。地元の碎石を活用可能。

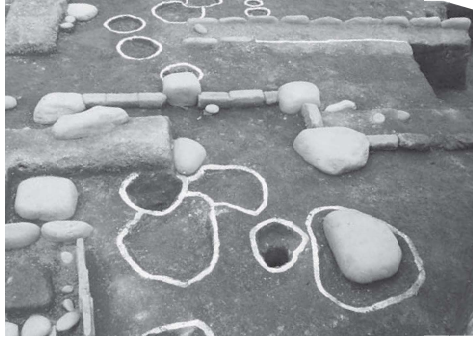
■各遺構表示の詳細検討

狭間石の表現方法

【遺構情報】

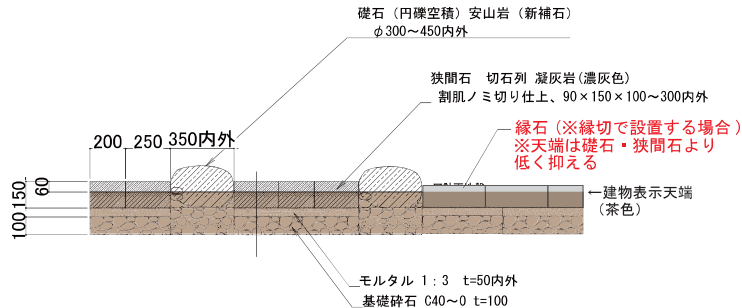
・風祭石（箱根産溶結凝灰岩）の切石を化粧袴として連結した大型の礎石が並び。

- 狭間石の幅は概ね 10 ～ 30 cm 程度か。
- 写真より高さは礎石より低い。
- 礎石が GL から 15 ～ 20 cm 程度、狭間石が 10 cm 程度出るか。



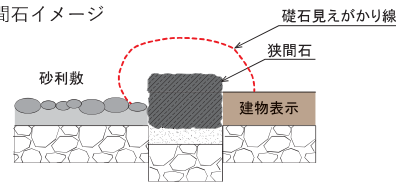
14・15号礎石建物跡礎石（東から）

案1：遺構に確認状況に併せて整備する。

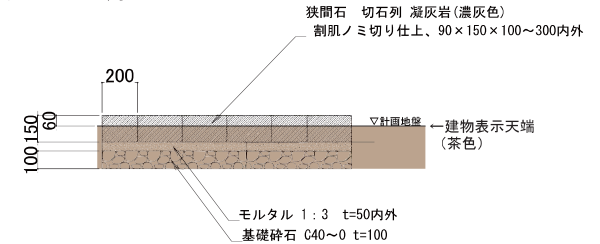


【参考図】建物表示の仕上げ面と砂利敷との高低差）※検討中

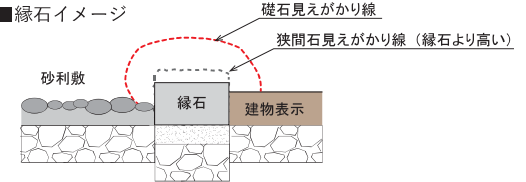
■狭間石イメージ



案2：狭間石があったと想定される範囲は復元的に整備する（案1だと縁石に切替わるが、想定範囲の狭間石を連続させる）。



■縁石イメージ



かわらけ廃棄土坑の表現方法

【遺構情報】

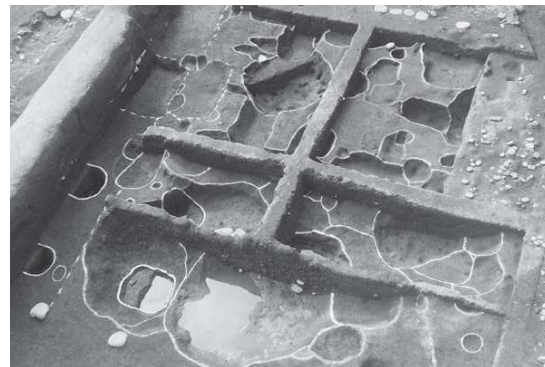
- ・建物範囲の西側にかわらけ廃棄土坑を確認。
- ・年代観は天正年間を主体にした16世紀後半のもの。

【確認事項】

- ・範囲が不明確である。
⇒ 3D データを使って再現することは可能だが、レプリカを作成するための寸法（面積・高さ関係）が決まっていなくて設置方法の選定・金額算出が難しいとメーカーから意見をもらっている。



386号遺構かわらけ出土状況（北から）



K6・7g付近かわらけ廃棄土坑群（北東から）

案1：陶板に遺構の写真焼付け、平面的に表示する。

【メリット】

- ・清掃が容易で、維持管理コストが低い。
- ・写真の焼付けによって、出土状況を分かりやすく表現できる。
- ・図面やスケッチ的表現など、解説板のように情報を加えやすい。
- ・段差が少なく、来訪者の歩行・バリアフリー対応が容易。

【デメリット】

- ・遺構の立体的な情報が伝わりにくい。
- ・展示としての空間体験が立体表示と比較して低い。

案2：FRP・GRC等で立体的に復元表示する。

【メリット】

- ・遺構の出土状況を立体的に展示することができ、考古学的理解が深まる。
- ・遺構の雰囲気演出しやすく、来訪者が理解しやすい。

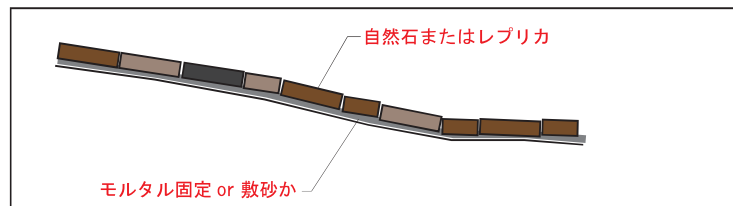
【デメリット】

- ・製作・設置コストが高い。
- ・経年劣化による維持管理が必要となる。
- ・周辺の遺構の展示方法との空間のバランスを検討する必要がある。

切石敷遺構の整備

【整備手法】

- ・石材や GRC・FRP 等のレプリカを組み合わせて整備を行う。



【確認事項】

- ・失われている範囲をどのように整備するか。
⇒遺構が確認されている範囲も再現となるため統一的に作成するか。
⇒3D データを使って再現することは可能だが、抜き穴のみの再現でない範囲は、色・形状等の寸法を細かく指示する必要がある。
- ・どこまでの再現性を求めるか。
⇒色・形状まで求める場合はレプリカが有効である。
⇒質感・イメージに拘る場合は、自然石が有効である。
- ・予算の検討。

【レプリカの場合】

※参考価格（遺構表現サイズ L=5.0m,H=0.6m,D=0.8m の時 GRC:2400 万、FRP:2200 万）

3 号切石敷遺構:70m²（遺構確認範囲 30m²+想定範囲 40m²を合計した面積）

GRC による整備:約 6,720 万円 (96 万円/m²)

FRP による整備:約 6,160 万円 (88 万円/m²)

【自然石の場合】

令和 4 年度の御用米曲輪瓦積み堀の整備金額（切石）を参考に算出。

3 号切石敷遺構:1 m² 辺り約 29 枚の板石（鎌倉石 25、安山岩 2、風祭石 2）

29 枚 × 約 4 万円（材料費・加工費・据付手間）=約 116 万円/m²

約 116 万円/m²×70m²=約 8,120 万円

※使用する石材、寸法・加工方法によって単価が変わる可能性がある。



R4 年度工事で作成した板石



施工状況



2 3号切石敷遺構検出状況（北から）



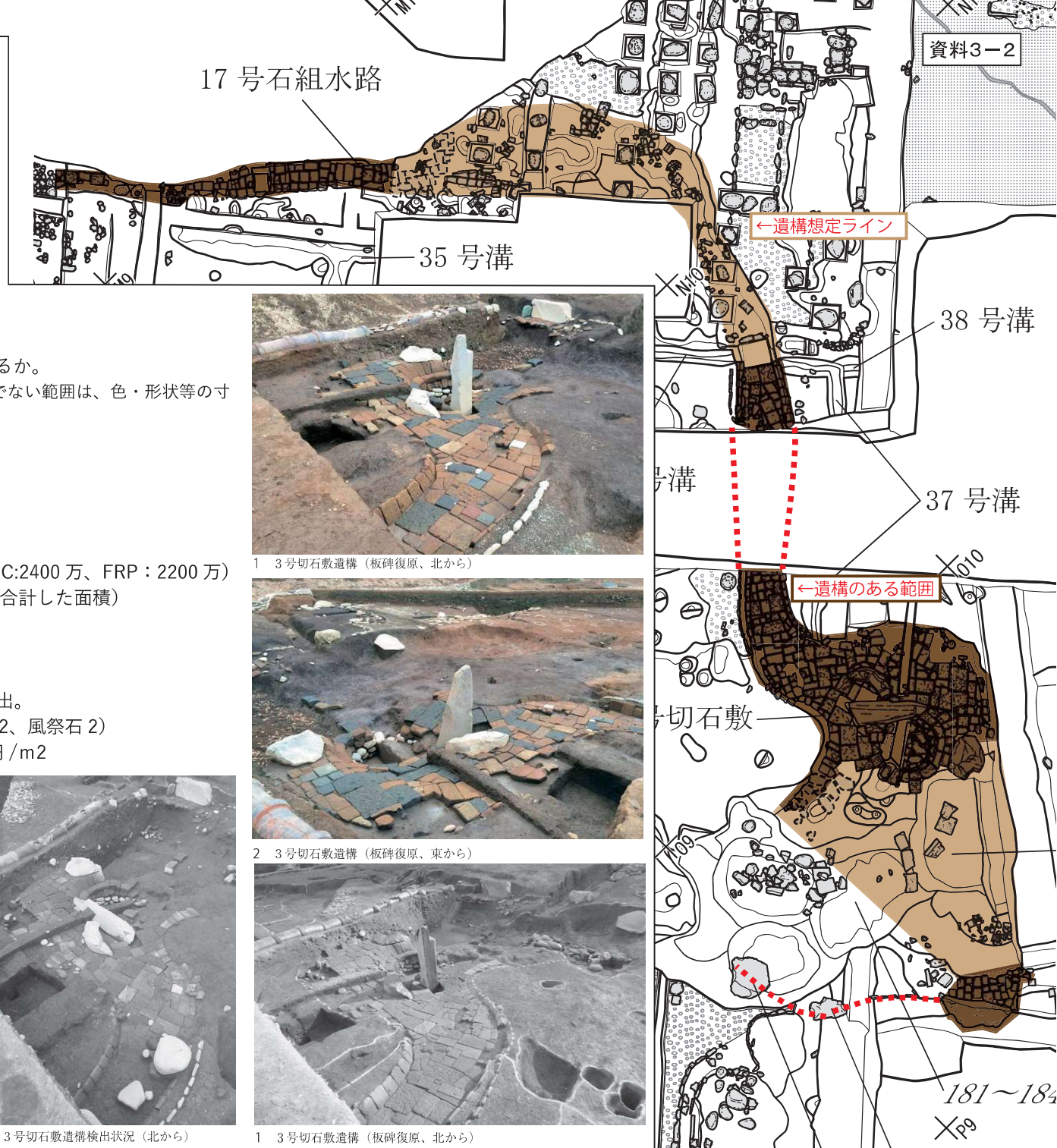
1 3号切石敷遺構（板碑復原、北から）



2 3号切石敷遺構（板碑復原、東から）



1 3号切石敷遺構（板碑復原、北から）



建造物の検討について

1. 14号・15号・16号礎石建物跡の検討について

①案：前回部会での議論を整理した案

- ・前回部会での議論を踏まえて平面図を作成した。
- ・南北方向は6尺2寸5分にこだわらず、4尺7寸で収めた。

（課題）

- ・軒の出は任意となるが、1m程度必要と考えた場合、断面図（図面茶色ライン）を用いて立体的に検討すると屋根がぶつかってしまう。

①案の課題を解決するために、②～④案を検討した。

②案：再検討案

- ・屋根の形状は入母屋ではなく、切妻造と考えた場合、軒が正面と背面のみ（東西方向）となることから、屋根形状も収められると考えた。
- ・庇は南北方向を4尺7寸で収めた。

（課題）

- ・屋根がぶつからないとしても、14号礎石建物と16号礎石建物の間に隙間が残り、中庭としては狭い。
- ・庭園側に庇を設けるかどうか。

③案：再検討案

- ・庇は6尺2寸5分で統一した。
- ・14号礎石建物と16号礎石建物間を中庭と想定した。

（課題）

- ・庭園側に庇を設けるかどうか。

④案：再検討案

- ・庇は6尺2寸5分で統一した。
- ・3号切石敷遺構脇の石を参考に、中門廊が取付くと想定した。
- ・15号礎石建物は、21号石組水路の位置とピットを参考に北側に拡張した。

（課題）

- ・庭園側に中門廊を設けるかどうか。
- ・15号礎石建物と16号礎石建物の接続部は一体的に縁として周る可能性もあるか。

■検討議論のまとめ

（1）14号礎石建物と16号礎石建物の間の空間が極端に狭くなっている。また、柱すじが通らない。

⇒14号と16号の造営に時期差があった可能性も考えられる。

▶①14・15・16号が造営

▶②勅使が来るなど儀式や行事に伴い14・15号（ハレの建物）を建替えか？

（2）15号礎石建物の建替の際に、外側にあった狭間石が内側に入るか？

・15号礎石建物と16号礎石建物の接続部は一体的に縁として周る可能性もあるか。

・狭間石があるから壁が取付くとは限らない。

（3）建物の入口をどのように考えるか？

・この時期の屋根形状は入母屋と想定されるが、妻を北に向けるか、東に向けるか、どちらの可能性も想定できる。

・敷地の入口側に妻が並ぶ場合が多く、入口の配置によって屋根形状が変わるか。

・14号礎石建物の北側には広場があり、出入口も北側または東側となるか。

2. その他の建物と周辺の遺構情報について

石組水路と切石敷遺構で囲まれた範囲の情報をまとめた。

（1）建物の入口をどのように考えるか？

・12号礎石建物は、敷砂利の状況から北側が入口となる可能性が考えられるか。

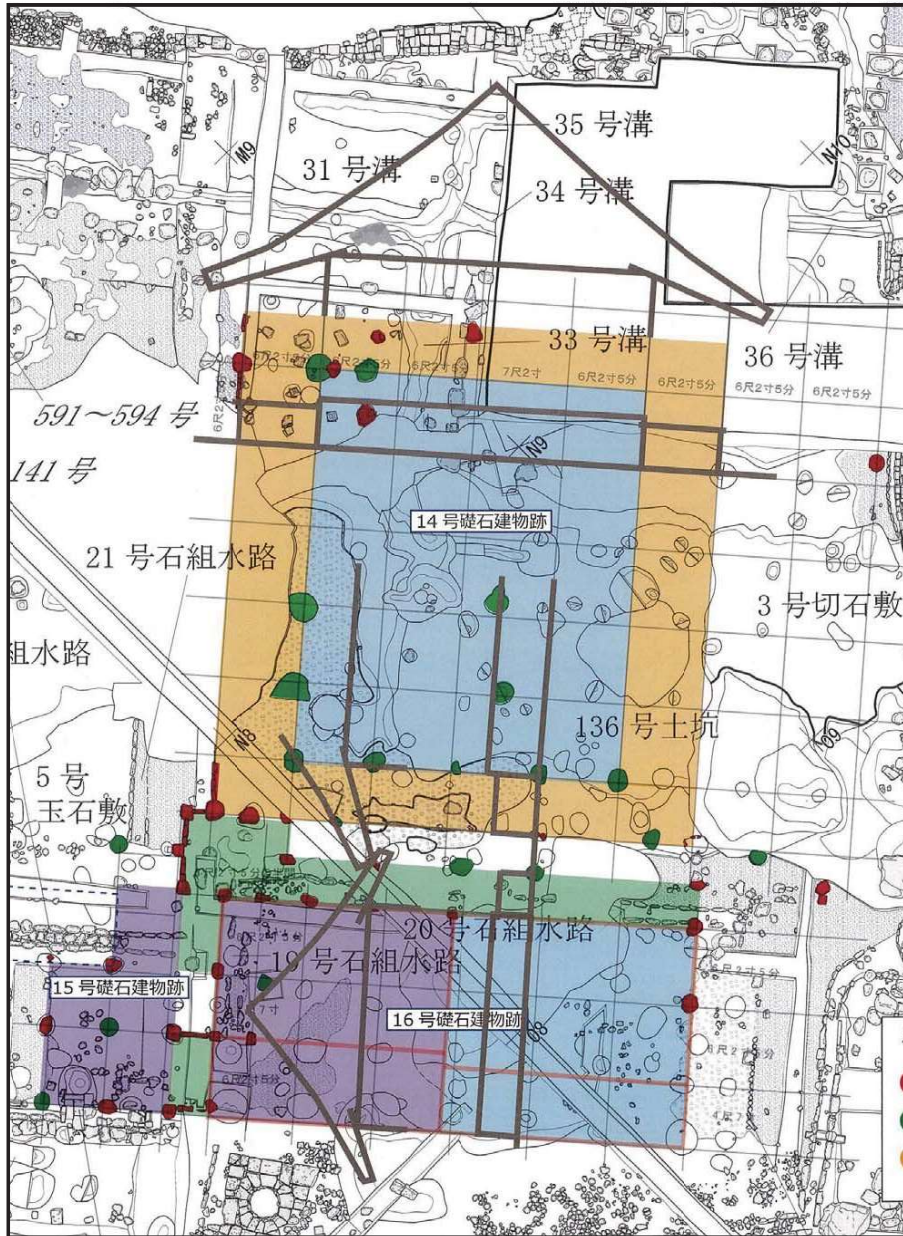
（2）12号礎石建物と13号礎石建物の間の削平範囲について

・12号礎石建物の南側の礎石列は、他の建物である可能性も考えられるが、12号礎石建物と13号礎石建物の間は削平を受けており、何らかの建物があった可能性も考えられるが、状況は不明である。

（3）地面の仕上げについて

・玉石敷・砂利敷範囲が確認されているが、失われている部分もある。どの範囲まで敷設されていたかどうかは不明である。

①案：前回部会での議論を整理した案

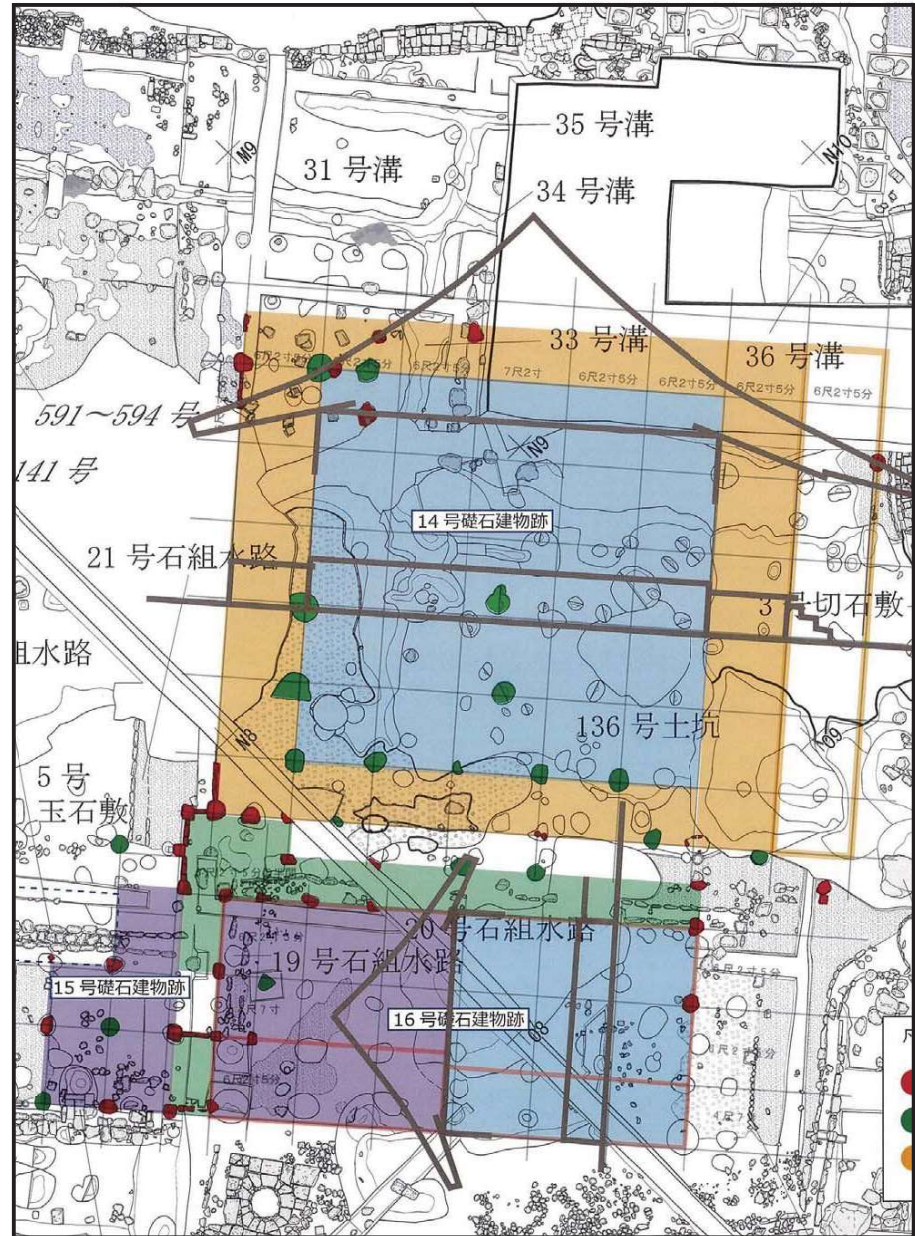


- ・前回委員会での議論を踏まえ、再検討を行った。
- ・南北方向は6尺2寸5分にこだわらず、4尺7寸で収めた。

(課題)

- ・軒の出は任意となるが、1m程度必要と考えた場合、断面図(図面茶色ライン)を用いて立体的に検討すると屋根がぶつかってしまう。

②案：再検討案

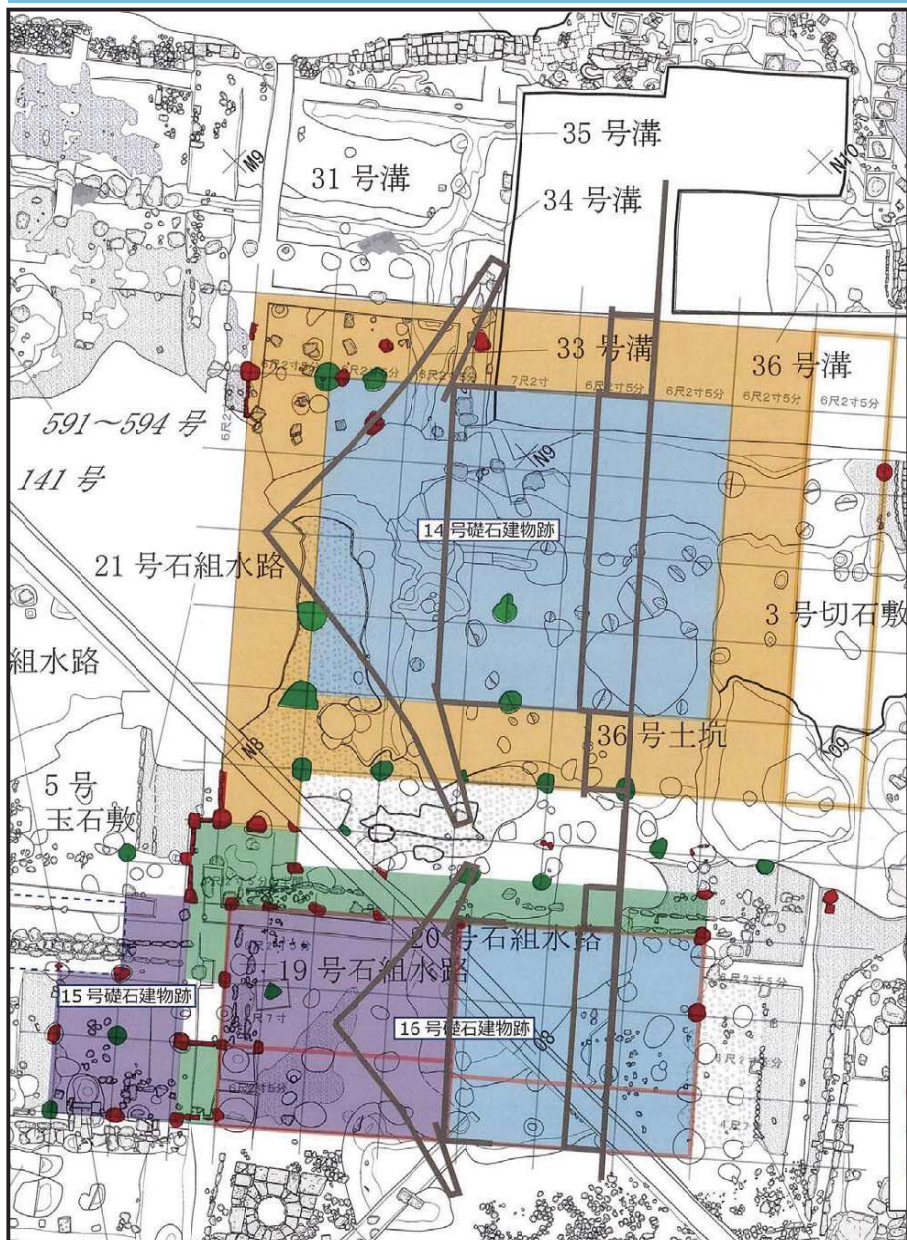


- ・屋根の形状は入母屋ではなく、切妻造と考えた場合、軒が正面と背面のみ(東西方向)となることから、屋根形状も収められると考えた。
- ・底は南北方向を4尺7寸で収めた。

(課題)

- ・屋根がぶつからないとしても、14号礎石建物と16号礎石建物の間に隙間が残り、中庭としては狭い。
- ・庭園側に底を設けるかどうか。

③案：再検討案

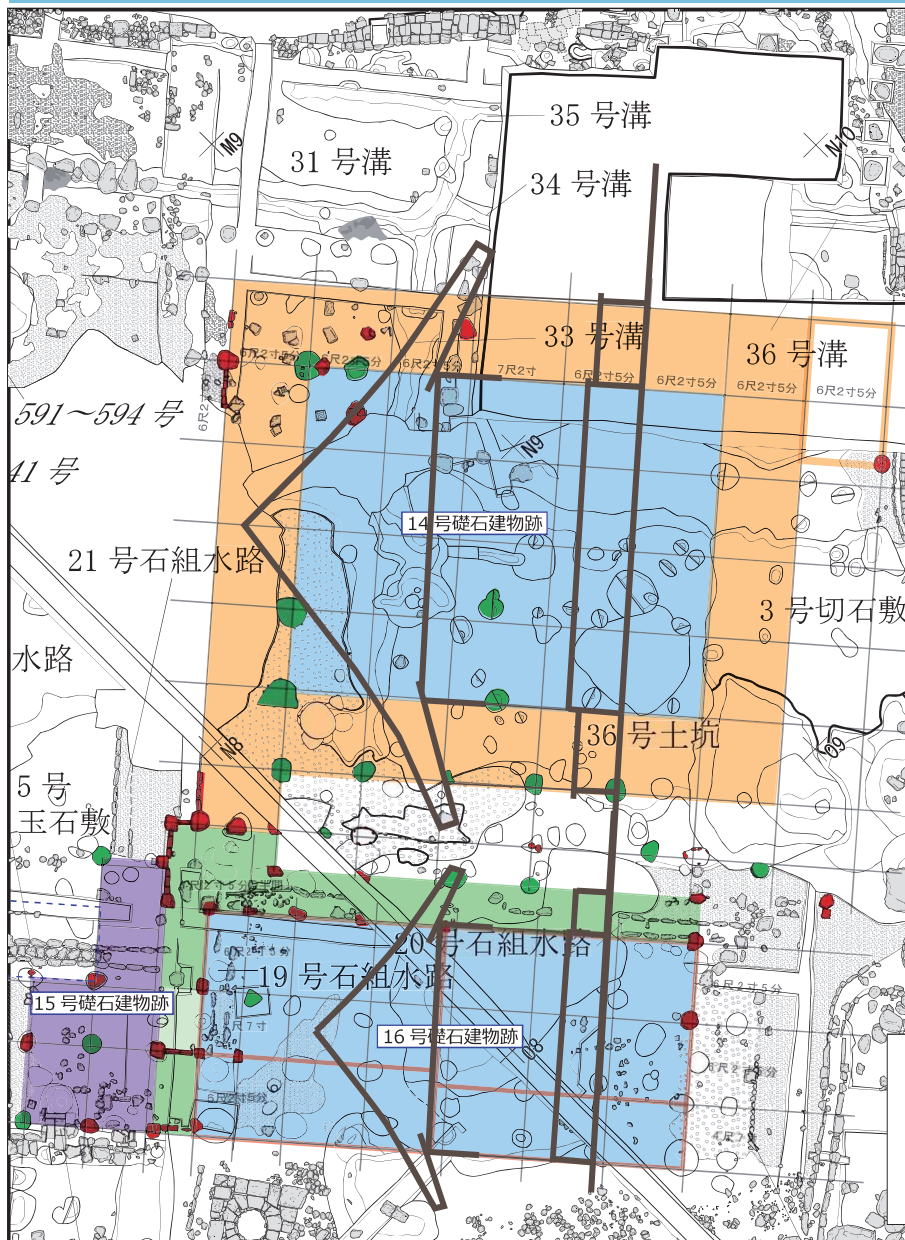


- ・底は6尺2寸5分で統一した。
- ・14号礎石建物と16号礎石建物間を中庭として想定した。

(課題)

- ・庭園側に底を設けるかどうか。

④案：再検討案



- ・底は6尺2寸5分で統一した。
- ・3号切石敷遺構脇の石を参考に、中門廊が取付くと想定した。
- ・15号礎石建物は、21号石組水路の位置とピットを参考に北側に拡張した。

(課題)

- ・庭園側に中門廊を設けるかどうか。
- ・15号礎石建物と16号礎石建物の接続部は一体的に縁として周る可能性もあるか。

■その他の建物と周辺の遺構情報（水路に囲まれた範囲）

